

別記様式第7号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業、都道府県広域捕獲活動支援事業、鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令7年度報告)

山口県(都府道)

- 1 被害防止計画の作成数、特徴等
県内全ての市町(19市町)において、被害防止計画が作成されている。
このうち、萩市と阿武町が広域の被害防止計画を作成している。
- 2 事業効果の発現状況
各地区の対策協議会を中心に対策を実施しており、シカにおいては、R5～R7年の被害防止計画に掲げている捕獲目標に対し、許可捕獲の実績が約94%となっている。
このように、本事業における有害捕獲、侵入防止柵の整備及び緊急捕獲活動等に取り組みは一定の成果を得ている。

- 3 被害防止計画の目標達成状況
4の評価対象のうち、被害防止計画の被害金額の目標達成は8協議会、被害面積の目標達成は6協議会であった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
										被害金額				被害面積																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
										対象鳥獣	現状値	目標値	実績値	割合	達成率	現状値	目標値				実績値	達成率																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
下関市鳥獣被害防止対策協議会	下関市	R5	有害捕獲	・狩猟免許講習会の開催 参加47名 ・捕獲機材購入11基 ・射撃研修会開催 参加 133名	金網柵 7,201m 電気柵 6,340m WM柵 46,268m	下関市鳥 獣被害防 止対策協 議会	R6/3		・シカ、サルの捕獲頭数の増加 ・追い払いによって農作物被害の抑制につながった。 ・令和7年度から新規事業を開始し、新規捕獲隊員の確保及び捕獲活動の省力化を図った。 ・侵入防止柵を設置した農林地では被害が軽減されている。 ・捕獲圧を維持することにより、イノシシ、シカの生息数の増加を抑制できている。	イノシシ	42,643	33,000	41,790	30%	9%	34.79	26.96	30.32	57%	令和6年度～令和7年度の被害防止計画を達成するため、下関市鳥獣被害対策実地による有害獣の捕獲及び農林地への侵入防止柵の設置等の有害鳥獣対策を実施した。 まず秋田について、イノシシ、シカのいずれも被害金額・被害面積の目標を達成することはできなかった。これは2獣種による被害は、侵入防止柵設置地域では一定の抑制の効果が確認されているが、個体数の増加、生息域の拡大が進んでいるものとみられ、これまで被害の多かった地域に被害が拡大しており、このことが被害額・面積の目標を達成できなかった原因であると考えられる。特にシカに関しては、捕獲頭数を大幅に増やしているにもかかわらず、被害額は基準年度の実績値よりも上昇する結果となっており、今後、各種対策をなお一層推進することが必要であるとされる。 また、当市においては、猟友会の高齢化と担い手不足の解消や、捕獲活動の省力化に対する支援として、令和7年度は新規捕獲隊員確保支援事業、捕獲活動省力化支援事業、ハンティングドローン実証支援事業及び簡易的な集約的埋設設備の設置事業に取り組んだ。 また、有害獣対策には、捕獲と防護の取り組みを継続していくこと併せて、地元業者ごとに住民自らが自主的な取り組みを行うことが重要であることから、このことを周知する活動もより強化して行っていく。	被害全体は、基準年度の146,394千円・86,24haから140,018千円・77.39haに減少した。目標には届かなかったが、捕獲と防護機の効果は認められる。特にサルの被害面積は大幅に減少し目標を達成した。カラスも被害額、被害面積ともに目標を達成している。 捕獲では、3年間で捕獲頭28基を導入し、狩猟免許講習会、射撃研修会に多数が参加している。令和7年度にはハンティングドローンを3回実証し、2頭を捕獲したほか、集約埋設設備を2基設置している。捕獲従事者の確保と作業の省力化を進めたい点の評価できる。 防護柵は、改善計画の実績では3年間で225.9kmとなり、計画216.2kmを上回っている。設置農地で被害が軽減したことも評価できる。 イノシシは被害面積が減少したものの、被害額目標を達成していない。シカは被害額が増え、被害面積も目標を大きく上回った。捕獲と柵の整備を進め、市全体の被害軽減につながっていない地区が残っている。 被害の多い地区で集約柵を行い、防護柵、防護柵、防護柵を同じ地区に同時に進める必要がある。防護柵は、新設だけでなく、道路や水路の開口部、地盤、継ぎ目などを定期的に点検し、早期に補修する。捕獲は、農地や住宅地に繰り出し出る個体を重点とし、ICTややりわね、大型捕獲器を活用する。環境整備は、薪の刈払い、緩衝帯、放任果樹、農作物残さ、耕作放棄地の管理を進めることが必要である。 併せて、今後も効果的に被害を減少させていくために、加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努め、地域ぐるみの被害防止活動の取組を推進していただきたい。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
			鳥獣被害防止施設																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

[illegible]

光市有害鳥獣捕獲対策協議会	光市	R5	鳥獣被害防止施設	金網柵 2,260m	光市有害鳥獣捕獲対策協議会	R6/2	防護柵の設置によるイノシシ等の農業被害の軽減 実施による有害捕獲の促進が図られている。	イノシシ	8,205	5,743	4,439	98%	153%	6.78	4.74	3.18	170%	イノシシの被害面積および被害金額は、ともに目標値を大きく下回って達成（達成率はそれぞれ176.47%、152.99%）しており、基準年の実績と比較しても着実な改善が見られる。この要因としては、防護柵の設置（単年補助や交付金事業による）トタン柵、ネット柵、ワイヤーメッシュ柵、電気柵、金網柵の積極的な整備を推進したことに加え、被害を及ぼすイノシシを計画的に駆除・抑制できたことが挙げられる。 また、サルについても被害面積・被害金額ともに目標を達成（被害面積は0 haを達成しており、群れによる出没が抑えられている。 一方で、新規狩猟免許受検料の助成等による捕獲者の確保に努めているものの、依然として地区猟友会員の実施加入率が低いという課題が存在する。今後は、地区猟友会と緊密に連携し、捕獲員の地質に向けた協議を継続する必要がある。さらに、新たな鳥獣に関する農業被害等への警戒や、実効性のある総合的な対策の維持・強化を図っていく必要がある。	1 被害防止計画の目標評価報告 鳥獣被害対策は、①防護、②捕獲、③環境整備の三本柱を、地域ぐるみで進めるという基本を確認する必要がある。 詳細報告書では、全体の被害は7,34ha・4,498千円から3,18ha・4,521千円へ減少し、目標を達成している。市と国の事業による防護柵を組み合わせ、捕獲網や柵網を農家が対策を続けた成果は評価できる。 防護柵の整備促進と合わせて、被害の多い場所を優先した工夫の効果が表れている。今後は、道路や水路などの開口部、地盤の掘り起こし、縦目や支柱の組みを定期的に点検し、早めに対応する必要がある。 イノシシの捕獲数は年間300頭の計画に対して109→220頭であった。豚熱の影響もあったと考えられるが被害軽減している状況をもって評価できる。捕獲数だけでなく、農地や住宅地に繰り返し出る個体を重点的に捕獲することが重要であることを確認すること。また、新規狩猟免許への助成は年間2件にとどまるため、捕獲網への加入、研修、見回りや止めなどの役割分担を進め、廃止した出動費等の助成についても、捕獲活動への影響を確認する必要がある。 環境整備は、計画に載の伐採や放任果樹の除去などがあるが、評価書では実績が確認できない。被害の多い地区で集落点検を行い、柵の張り場所、出沒地点、潜み場所や餌地と共有することが必要である。今後実施は、可能な範囲で20m程度の緩衝帯を整備し、管理する人や方法も決めておくことが望ましい。 カワウツは、盗伐と情報交換し、飛来場所、時期、個体数、被害を把握した上で対策を検討したい。 鳥研究機関としては、市、地域住民、捕獲網、猟友会、漁協等が役割を分担し、モデル地区で三本柱を実施した後、市内へ広げること提案する。これにより、限られた人員でも続けられる対策につながると考える。	全ての獣種において、被害金額、被害面積ともに目標を達成しており、各種対策の効果が認められる。 今後とも継続して被害を減少させていくために、加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努め、地域ぐるみの被害防止活動の取組を推進していただきたい。
		R6	有害捕獲 鳥獣被害防止施設	実施隊員による有害個体の捕獲活動 金網柵 1,770m		R7/2		ニホンザル	225	157	82	2%	210%	0.05	0.03	0	250%			
		R7	有害捕獲 鳥獣被害防止施設	実施隊員による有害個体の捕獲活動 金網柵 2,190m		R8/2														
長門市有害鳥獣被害防止対策協議会	長門市	R5	イノシシ、ニホンザル ジビエ利用拡大 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	サル用大型囲いわな 1基 国産ジビエ認証取得に向けた取組 金網柵 377m イノシシ 689 シカ 1,028 サル 49	長門市有害鳥獣被害防止対策協議会	R6/2	サル捕獲機材については、市内で被害・出没の多い地域に設置することで被害防止につながった。 センサーカメラに関しては、見回りの負担軽減や生息状況把握とともに、効果的な罠の設置が可能となる他、罠の状況の把握やかかった獲物の処理等の準備の効率が上がった。 ジビエのPRIにより、ジビエ肉の需要の拡大を行うことで、捕獲活動をより一層の促進を図った。 また、ジビエ料理を市内飲食店に振るまい、講演を行うことで、ジビエへの興味を引き出すことに加え、導入への可能性を見出した。	イノシシ	9,621	8,160	8,549	40%	73%	9.76	8.33	8	123%	鳥獣被害防止施設の整備や捕獲等の対策だけでなく、捕獲個体の利用促進を図るためにジビエの扱いに係る各種研修実施するなど、ジビエ利用の促進に力を入れることに加え、大型罠の設置やサル用の罠の設置など総合的に対策を行ったが、目標値を超える以前より、基準値よりも被害がでてしまう結果となった。 柵や柵の設置により守ることのできる農地が増えたがその分防護柵未設置の農地の被害が増えた結果であると考えられる。 今後は、改善計画を基に、防護柵の整備を進め、広域的な被害対策を進めていくとともに、ジビエ利用を促進し、捕獲活動をより一層推進していくための取組をすすめていく。	イノシシに関しては、被害金額が目標に達していない。被害面積は目標に達成できているが、被害を減少させるために、防護対策や捕獲対策の効果が出ていないと判断される。 また、捕獲個体のジビエ利用に依存する取組を進め、見回り、捕獲に協力し、更なる対策が必要である。 今後とも継続して被害を減少させていくために、加害個体の捕獲、侵入防止柵の整備、生息環境管理など総合的な対策に努め、地域ぐるみの被害防止活動の取組を推進していただきたい。	
		R6	ジビエ利用拡大 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	国産ジビエ衛生管理講習会の開催 新商品開発 電気柵 500m イノシシ 657 シカ 1,104 サル 93		R8/3		ニホンザル	6,744	5,810	10,737	50%	-352%	6.16	5.3	9.63	-403%	イノシシの捕獲活動の意欲高揚や電気柵等による被害防止対策を進めた結果、農作物の被害は平成22年度のピーク時よりは減少している。 イノシシの捕獲数は令和5年度は前年と比べ大きく減少し、令和6年度は捕獲数が増加したものの、令和7年度は再び減少した。今後とも豚熱の影響等による捕獲状況の変化について注視する必要があるが、本計画における目標年度の目標値は達成することができず、捕獲促進の必要がある。 また、緊急捕獲活動を実施しても、農作物被害軽減に寄与している。	イノシシの捕獲活動の意欲高揚や電気柵等による被害防止対策を進めた結果、農作物の被害は平成22年度のピーク時よりは減少している。 イノシシの捕獲数は令和5年度は前年と比べ大きく減少し、令和6年度は捕獲数が増加したものの、令和7年度は再び減少した。今後とも豚熱の影響等による捕獲状況の変化について注視する必要があるが、本計画における目標年度の目標値は達成することができず、捕獲促進の必要がある。 また、緊急捕獲活動を実施しても、農作物被害軽減に寄与している。	
		R7	有害捕獲 ジビエ利用拡大 緊急捕獲活動	サル用囲いわな 1基 サル用柵わな 2基 センサーカメラ 4基 衛生管理研修会 ジビエ料理界及び講演会 イノシシ 419 シカ 1,123 サル 65														※総合支援チェックシート 及び鳥獣被害防止対策シート全て実施		
柳井市有害鳥獣捕獲対策協議会	柳井市	R5	イノシシ、サル、シカ、タヌキ、アナグマ、カマド、ヒヨドリ、カワウ、ヌートリア 緊急捕獲活動	イノシシ用柵わな 6基 イノシシ 519 サル 4 シカ 1	柳井市有害鳥獣捕獲対策協議会		柵わなに關しては、被害が軽減する等、効果が発揮されている。 また、緊急捕獲活動支援に関しても、農作物被害軽減に寄与している。	イノシシ	9,765	6,835	3,941	70%	199%	8,558	5.99	2.83	223%	イノシシの捕獲活動の意欲高揚や電気柵等による被害防止対策を進めた結果、農作物の被害は平成22年度のピーク時よりは減少している。 イノシシの捕獲数は令和5年度は前年と比べ大きく減少し、令和6年度は捕獲数が増加したものの、令和7年度は再び減少した。今後とも豚熱の影響等による捕獲状況の変化について注視する必要があるが、本計画における目標年度の目標値は達成することができず、捕獲促進の必要がある。 また、緊急捕獲活動を実施しても、農作物被害軽減に寄与している。	イノシシの捕獲活動の意欲高揚や電気柵等による被害防止対策を進めた結果、農作物の被害は平成22年度のピーク時よりは減少している。 イノシシの捕獲数は令和5年度は前年と比べ大きく減少し、令和6年度は捕獲数が増加したものの、令和7年度は再び減少した。今後とも豚熱の影響等による捕獲状況の変化について注視する必要があるが、本計画における目標年度の目標値は達成することができず、捕獲促進の必要がある。 また、緊急捕獲活動を実施しても、農作物被害軽減に寄与している。	
		R6	有害捕獲 緊急捕獲活動	イノシシ用柵わな 5基 イノシシ 759 サル 2 シカ 1														※総合支援チェックシート 及び鳥獣被害防止対策シート全て実施		
		R7	有害捕獲 緊急捕獲活動	イノシシ用柵わな 8基 サル用囲いわな 1基 イノシシ 464 サル 5																
周南市有害鳥獣捕獲対策協議会	周南市	R5	イノシシ、タヌキ、ヒヨドリ、カワウ、アナグマ、ニホンザル、シカ、タヌキ、アナグマ、カマド、ヒヨドリ、カワウ、ヌートリア 緊急捕獲活動	サル用柵わな 2基 イノシシ 327 サル 28 アナグマ 28 タヌキ 12 イタチ 3 テン 4 ヌートリア 5 カラス 13 ノウサギ 1	周南市有害鳥獣捕獲対策協議会		柵わなに關しては、被害が軽減する等、効果が発揮されている。 また、緊急捕獲活動支援に関しても、農作物被害軽減に寄与している。	イノシシ	13,127	8,507	12,327	58%	17%	11.17	7.25	8.44	70%	基準年度に対してカラスの被害額を除き、被害面積及び被害金額は減少した。 交付金を活用し、捕獲機材の整備を行い、主な有害鳥獣であるイノシシ、ニホンザルの捕獲強化に取り組んだ。 今後は、国、県及び近隣市町村と連携した取組を実施し、被害防止対策を推進する。	捕獲機材の整備等により捕獲活動に効果が見られ、被害面積及び被害額は減少している。 農産物と協力し被害発生地の住民に対して、鳥獣に対する集落づくりを実施できるような言、指導を行い、住民主体の「環境整備」「被害防止」をより一層推進してほしい。	
		R6	有害捕獲 緊急捕獲活動	イノシシ用柵わな 4基 イノシシ 522 サル 10 アナグマ 100 タヌキ 16 イタチ 3 テン 7 ヌートリア 6 カラス 28 アライグマ 2													※総合支援チェックシート 及び鳥獣被害防止対策シート全て実施			
		R7	有害捕獲 緊急捕獲活動	イノシシ用柵わな 6基 クマ用柵わな 2基 サル用柵わな 5基 イノシシ 420 シカ 1 サル 5 アナグマ 41 タヌキ 16 イタチ 12 テン 3 ヌートリア 7 アライグマ 1 カラス 16																
山陽小野田市有害鳥獣対策協議会	山陽小野田	R5	イノシシ、カラシ、ヒヨドリ、シカ、サル、ヌートリア ICT等新技術の活用 鳥獣被害防止施設 緊急捕獲活動	イノシシ用柵わな 2基 サル用柵わな 2基 長距離無線式トローリングシステム 観機 1基 子機 3基 自動捕獲システム 4基 WM柵 1,905m イノシシ 98 シカ 2 サル 1	山陽小野田市有害鳥獣対策協議会	R6/1	イノシシ等の捕獲により農業被害が軽減された。 侵入防止柵の設置による農業被害が軽減された。 柵わなの整備が進み効率的な張り出しや捕獲を実施することができた。 長距離無線式トローリングシステムの導入により、イノシシ等を効率的に捕獲するとともに、巡回確認作業の省力化を図ることができた。	イノシシ	5,193	3,635	754	12%	28%	5.2	3.64	1.01	26%	イノシシ、サル及びヌートリアに関しては、被害面積及び被害金額ともに目標達成には至らなかった。イノシシに関しては、被害面積は目標を達成したが、被害金額は目標を達成することができなかった。目標が未達成となった理由は、収穫期の作物への被害によるものが大きい。 ヒヨドリ及びシカに関しては、被害面積及び被害金額ともに目標達成には至らなかった。目標が未達成となった理由は、収穫期の作物への被害によるものが大きい。 今後は、カラス、ヒヨドリ及びシカへの対策強化を検討する必要がある。	鳥獣被害対策による被害軽減のためには、①被害発生地の被害発生を特定した捕獲、②鳥獣及び地域の地形に適合した侵入防止柵の設置・維持管理、③放任による被害発生、被害発生地の住民に対する指導・啓発	

